

ト、ト イレフ オメーとヨシ

顔にトラブルがあつたら、内臓の弱み所を
手おしよしよ、と、いふお話をいたしよす。

内臓に障害があると、神経の反射作用によ
り 皮の特定の場所に障害があらわゆるす。
例えバ、胃が患いと脊中がいたか、たり、肩
甲骨の肉が痛くなりしよすし、浮腫のあたり
に吹き出物があやすくしよす。

患い所が胃であるのに、手で皮膚のその
顔の一部に反応があらわゆるすて不思議に
感じらゆるかもしよすせんが、実は胃は交感
神経と副交感神経の二重支配をうけてしよす。

手が交感神経の手を誤解しよすと、胃に障
害があると、胃に分布してしよる交感神経から
一部は腹の中へ、そして、もう一つは脊中
へと通つて胃の裏側や、肩甲骨の肉の筋肉や
皮の汗腺をあたえよるので、筋肉が異常収縮
をおこし、かたくなり、こいたみを生じよすので
方、そこで胃が患いと脊中がいたかといふ事

になりす。

そして又、自律神経の二重支配をうけてい
ますから、副交感神経を胃に集めてあげると、
副交感神経の手は、胃に異常が起ると、やはり
刺激を中絶へつた之です。この中絶は、
このかたの所に集めてくる三叉神経へのけがれ
で、三叉神経の支を絞ることでその手に集めてくる
神経は総わり、その支配下の顔のほたの皮つ
の毛細血管を拡張し刺激をし、過敏となり、
混濁、吃き出さるものをつくりやすい状態にする
のであ。

このように脊から神経を通じて近くの筋内
や皮つに反射するのを短反射と呼、副交感神経
を通じて遠い顔面の皮つなどに反射するのを
長反射と呼とし、このようになります。

そしてこの事から、皮つの障害場所によ
り、内臓の健康度を判断し、又内臓から健康
にしているか否かと顔のトラブルは、つながり
ているが、あわがりのことだと思ひます。

下重作其也

性本也

副以作其也

甲状腺

子宫

肝脏

卵巢 胃

大肠